

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Inverse Association Between Mothers' Cognitive Social Capital During Pregnancy and Postpartum Depression: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと産後うつとの負の関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Neuropsychiatric Disease and Treatment

年: 2024 DOI: 10.2147/NDT.S456295

筆頭著者名: 畠山 岳大

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

認知的ソーシャル・キャピタル(近隣への信頼感や互酬性、人に対する全般的な信頼感や互酬性)とうつ病との負の関連がさまざまな集団で報告されているが、周産期の母親における報告は少ない。そこで、本研究では、妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと、産後うつとの関係について調べた。

方法:

エコチルに参加する 81,670 名の母親を対象とした。妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタル(近隣に対する信頼感、近隣の互酬性、人に対する全般的な信頼感、人の全般的な互酬性)の 4 項目と、産後 1、6 ヶ月時点におけるエジンバラ産後うつ尺度で評価した産後うつ(合計得点 9 点以上)の関連を検討した。ロジスティック回帰分析を用い、社会経済状況などの共変量で調整して分析した。

結果:

産後うつの有病率は、近隣のキャピタルの点数が最も低い群において 15~21%、最も高い群において 7~9%であった。また、全般的なキャピタルの点数が最も低い群において 24~29%、最も高い群において 6~9%であった。ロジスティック回帰分析の結果、測定時点にかかわらず、産後うつは近隣への信頼感が低いほど多くみられることが明らかとなった。また、この傾向は、その他 3 つの項目、すなわち、近隣の互酬性、人に対する全般的な信頼感、人の全般的な互酬性についても同じであることが分かった。

考察(研究の限界を含める):

産後うつの有病率は、その測定時期(産後 1、6 か月)に関わらず、妊娠中における認知的ソーシャル・キャピタルと負の関連を示した。しかも、その関連には明確な用量反応関係が認められた。そのため、妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルが、産後の精神健康の維持に大きな役割を果たしていることが示唆された。しかし、本研究は明確な因果関係までは扱っていない、産後うつの評価が自己評価式であり臨床診断とは異なる、という限界点がある。

結論:

産後うつは、妊娠中における認知的ソーシャル・キャピタル(近隣への信頼感や互酬性、人に対する全般的な信頼感や互酬性)が低いほど多くみられることが明らかとなった。